



小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

水そうのかべが、黄緑色がかってくるのはなぜなの



水そうのそうじをあまりやらないと、水そうのかべに、もなどがはえて黄緑色に見えるのさ。日が当たるとはえやすいよ。

水そうのかべは、こすってあらわないと、もがつきやすい

ときどき、中の水や底のじりまですっきり出して、水そうのかべや底、じりのよごれなどをよくこすりあらいしないと、水そうの中はぬるぬるしてきます。明るい場所や、日光が少しでもさしこむところに置かれた水そうには、特に、かべの内側に黄緑色のものがついてきます。

このぬるぬるは、水中にいるバクテリアや、もなどです。水中には、メダカなどのえさの食べ残しや、ふんなどが混じっていますが、これを栄養えいようにして生きるバクテリアなどの小さな生き物が、いつのまにかふえているのです。

もは、植物のなかまで、酸素さんそをつくり出してくれる

もは植物のなかまで、魚などが呼吸こきゅうで水中に出す二酸化炭素にさんかたんそを取りこみ、魚に必要な酸素を作り出しています。このはたらきは、光や日光がたくさんあるところほどよく行われ、もはよく成長し、水そうのかべが黄緑色になります。

メダカやキングヨが、水そうのかべや底のじりをつついていていることがあるのは、もを食べているのです。水中には、魚のえさになる目に見えないような小さな生き物（プランクトン）もふえてきます。そのため、長く使っている水そうのメダカやキングヨは、2～3日えさをやらなくても、平気なのです。

水そうにモノアラガイなどの巻まき貝を入れておくと、もを食べてくれるので、水そうが黄緑色ふせがかってくるのを防いでくれます。

池のキングヨが、えさをやらなくても平気なのは、プランクトンやもを食べているんだね。



もっと知りたい人へ：「水中の小さな生き物は、何を食べているの」も見てみよう。